

<金標準、悪材料の織り込みから巻き戻し相場へ・・・>



(出所：オアシス)

原油高・金利高・ドル高のリスク逃避のサイクルが続く中で、製造業・サービス部門の購買担当者景気指数（PMI）が市場予想を上回り、底堅い米国景気とインフレ圧力が示され、米国 10 年債は 2007 年以來の 5% を超える金利を付け、30 年債も 2004 年 6 月以來の高水準を付けるなど、金利高の悪材料から「金利を生まない金価格」は軟調な値動きを見せている。ただ国連総会に出席しているアラグチ・イラン外相は、ホルムズ海峡の開放について米国側に条件を提示するなど、水面下では協議が進む憶測など、原油価格の下落にリスクの巻き戻しを週末には見せている。またトランプ大統領と高市首相との首脳会談やベッセント財務長官と片山財務相との電話協議など、円安・ドル高抑制の話が話題となるなど、リスク逃避の動きである原油高・金利高・ドル高の巻き戻しを週末には見せている。

特に金標準先物は 22000 円で抵抗を見せるなど、売られ過ぎた値動きに下げ渋る動きを続けており、22500 円を上回ると巻き戻し相場で 23000 円へ向けた値動きが起こると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が切り上げ、シグナルは切り下げている。RCI は短期が上昇し、長期は下げ止まっている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジに向けて戻りを見せており、22600 円に向けた戻りが起こる可能性が高まっていると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,615,000 円(2026 年 9 月 28 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 95,040 円(2026 年 9 月 28 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>